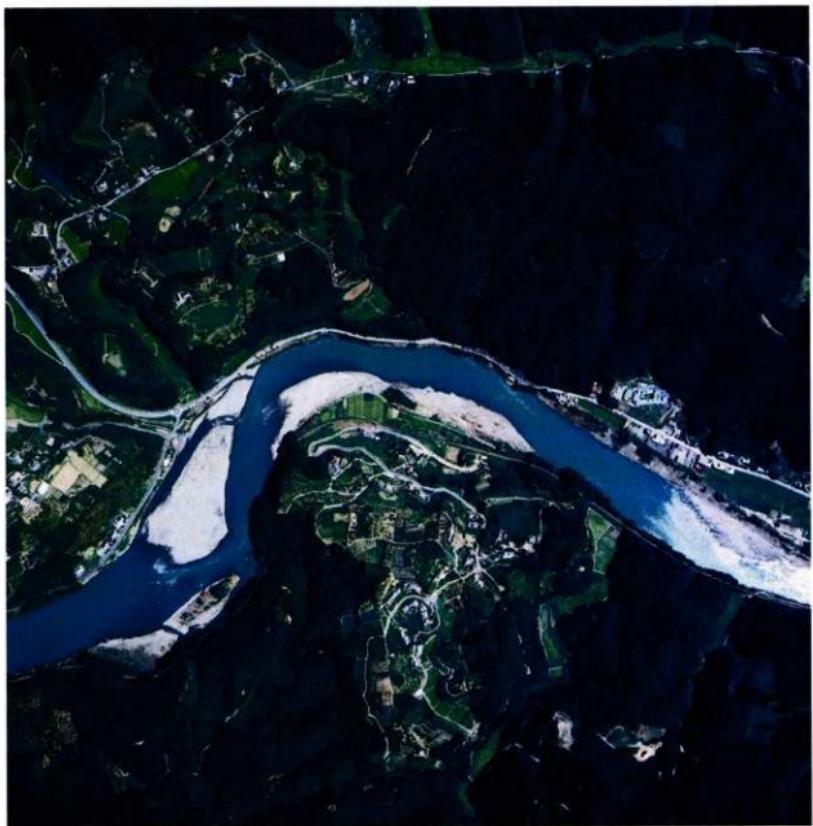


北方町文化財報告書第26集

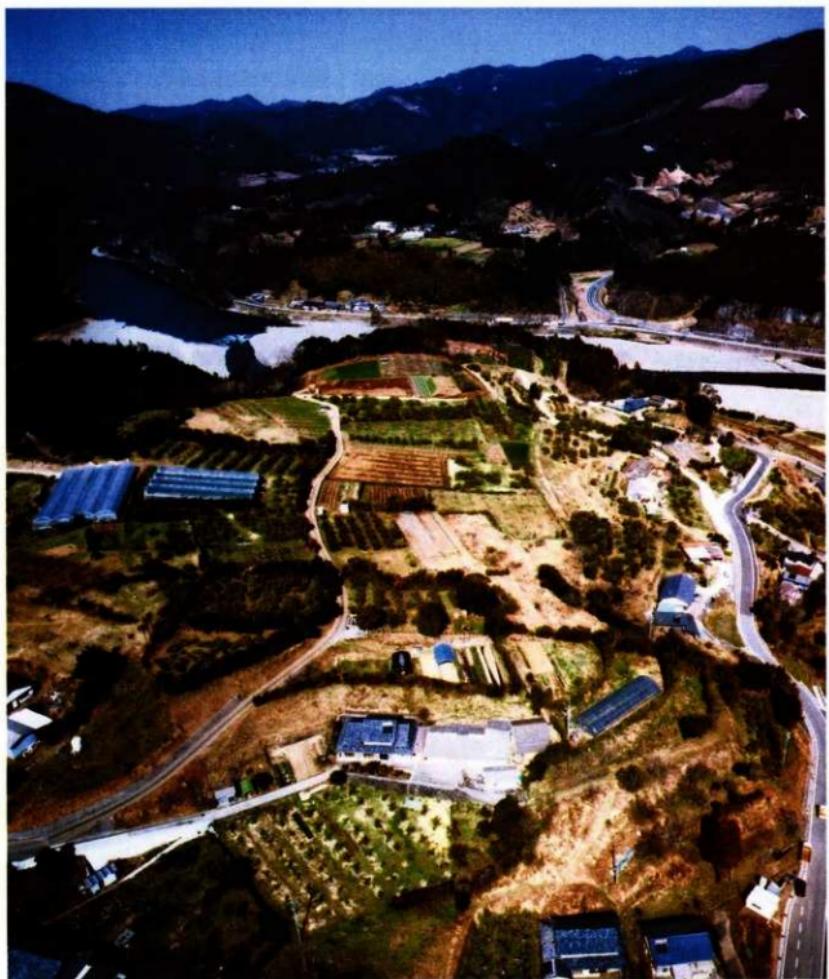
北方町内遺跡5

2005年3月

宮崎県東臼杵郡北方町教育委員会



上崎遺跡周辺航空写真



上崎遺跡周辺空中写真

(東臼杵農林振興局提供)

序

日頃より埋蔵文化財の保護、活用に関しましては深いご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

北方町教育委員会では、農業基盤整備事業や、道路改良工事等諸開発事業に伴う事前発掘調査を行い、埋蔵文化財保護の保護につとめてまいりました。地下に埋もれている埋蔵文化財を、開発等によって崩壊・消滅するのを未然に防ぐことを目的として、調査を実施しました。本書は、その報告書です。

本書の刊行を通して、地域の文化財に対する理解と認識が、ますます深まっていくことを願うとともに、今回の成果が社会教育・学校教育等で広く活用されれば幸いに存じます。

最後になりましたが、事業の推進にあたって分布調査の作業ご協力をいただきました町民の皆様をはじめ、ご指導ご助言をいただきました宮崎県教育委員会文化課など関係機関の皆様に対し、こころより感謝申し上げます。

平成17年3月

北方町教育委員会

教育長 中 利幸

例　　言

1. 本書は、北方町教育委員会が文化庁、宮崎県教育委員会の補助を受けて実施した発掘調査の報告書である。本年度は、上崎遺跡の発掘調査を実施した。
2. 調査は、北方町教育委員会が主体となり、同文化財係長小野信彦が担当した。
3. 調査の組織

調査の組織は、以下の通りである。

調査主体	北方町教育委員会	教育長	中利幸
調査総括		社会教育課長	甲斐淳一
事務担当		社会教育課長補佐	甲斐克則
調査担当		文化財係長	小野信彦

調査指導 宮崎県文化課

4. 本書の編集は、小野が行った。
5. 本書で使用した写真・図面については北方町教育委員会で保管している。

目　　次

Iはじめに	1
1. 位置と歴史的環境	1
2. 調査に至る経緯	1
II調査の内容	4
1. 調査の概要	4
2. 基本層序	4
IIIおわりに	8
報告書抄録	9

I . はじめに

1. 位置と歴史的環境

本町は、東九州有数の工業都市として知られている延岡市に隣接しており、町の南部を九州山地に源を発する五ヶ瀬川が流れる。町域面積のほぼ89%を、山林が占める農林業主体の町である。

遺跡は、旧石器時代ではAT層下位より石核等が出土した矢野原遺跡や半船底型細石核と隆帶上に爪形文を施した土器が共伴した出土した岩土原遺跡がある。

縄文時代早期では速日峰地区遺跡、藏田遺跡等で押型文土器・集石遺構が、前期では笠下下原遺跡で轟B式土器・曾畠土器等が、中期では笠下遺跡等で船元式土器が、後期では菅原洞穴で鐘ヶ崎式土器等が、晚期では南久保山小堀町遺跡等で黒色磨研土器が出土している。

弥生時代では昭和28年に北方町から板付II式土器と思われる土器片が採集されて、宮崎大学に保管されている。後期初頭になると表採品であるが、瀬戸内系土器の移入が見られる。弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけて、速日峰地区遺跡等で堅穴住居跡の検出例が増加している。遺物には、甕・壺・高杯・ミニチュア土器・石庖丁等がある。

古墳時代では後期の箱式石棺が矢野原・駄小屋・後曾木等で発見されている。曾木地区には、昭和12年に県指定史跡となった『北方村古墳』がある。

奈良・平安期の遺物が速日峰地区遺跡や南久保山小堀町遺跡等で出土しているが、量的には多くない。中世になると、町内各地には六地蔵や五輪塔等が散見される。中世山城跡として、藏田城や仲畠城がある。笠下遺跡、速日峰地区遺跡等では祭祀遺構が検出され、備前焼のすり鉢や明鏡等が出土している。

近世は延岡藩領となり、内藤氏時代には木炭生産や鉱山開発が盛んに行われ明治新政府へと引き継がれた。

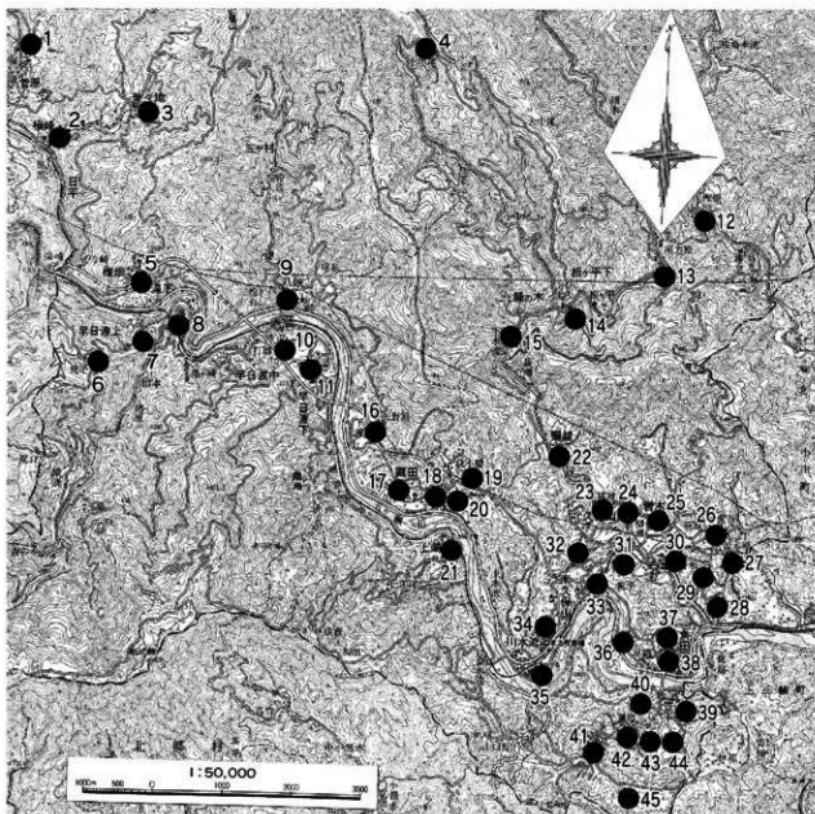
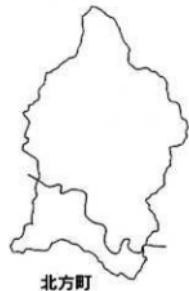
2. 調査に至る経緯

本町では、社会情勢の変化とともに過疎化、高齢化が進み、それらに対応するために町内各地で生産基盤・生活環境整備が進められ、小規模ながら各種開発事業が具体化しつつある。

教育委員会では、昭和63年度より各種開発事業と埋蔵文化財の保護との調整を図るための事前確認調査等を実施してきた。

本年度は、上崎遺跡を、社会教育関連事業の合間にねって実施した。

遺跡名	所在地	調査原因	調査面積 (m ²)	調査期間
上崎遺跡	辰上崎	個人農地改良	750	平成16年6月16日 ～平成17年2月28日



北方町主要遺跡位置図

番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	備 考
1	菅原洞穴	未 菅原	洞穴遺跡	旧石器～中世	昭和41年調査
2	横峰遺跡	未 横峰	散布地	縄文～中世	近代鉱山跡
3	美々地遺跡	西 上中尾	散布地	中世～近世	中世山城の可能性
4	上中尾遺跡	西 上中尾	散布地	中世～近世	
5	椎畠六地蔵	未 椎畠	町指定文化財	縄文～近世	多木遺跡(旧名)
6	荒平遺跡	巳 荒平	散布地	縄文～近世	
7	久保遺跡	巳 久保	散布地	縄文～近世	
8	城遺跡	巳 城	中世山城跡	縄文～近世	大部分は削平
9	八峠遺跡	午 八峠	集落跡	弥生～近世	一部消滅
10	打扇遺跡	巳 打扇	集落跡	旧石器～近世	一部保存
11	早日渡遺跡	巳 早日渡	集落跡	旧石器～近世	一部保存
12	櫻原遺跡	戊 櫻原	散布地	縄文～近世	一部保存
13	屋形原遺跡	戊 屋形原	散布地	縄文～近世	
14	小原遺跡	戊 小原	集落跡	縄文～近世	一部保存
15	藤の木水流遺跡	酉 桑水流	集落跡	縄文～近世	一部保存
16	矢野原遺跡	辰 矢野原	集落跡	旧石器～近世	一部保存
17	藏田遺跡	辰 藏田	集落跡	旧石器～近世	一部保存
18	藏田城	辰 藏田	中世山城跡	中世	堀等が良好に残る
19	駄小屋遺跡	辰 駄小屋	散布地	旧石器～近世	
20	殿上遺跡	辰 殿上	散布地・石棺群	旧石器～近世	石棺群は消滅
21	上崎遺跡	辰 上崎	集落跡	旧石器～近世	一部保存
22	獣越遺跡	子 獣越	散布地	縄文～近世	
23	猪渡遺跡	子 猪渡	集落跡	縄文～近世	一部調査
24	仲畑遺跡・仲畑城跡	子 仲畑	散布地・中世山城跡	縄文～近世	堀等が残る
25	曾木遺跡	子 曾木	散布地・石棺群	縄文～近世	県指定北方村2号古墳
26	荒谷遺跡	子 荒谷	散布地	縄文～近世	一部調査
27	曾木原遺跡	子 深谷	散布地	旧石器～近世	一部調査
28	黒仁田遺跡	子 黒仁田	散布地	縄文～近世	
29	中野遺跡	子 中野	散布地	縄文～近世	一部調査
30	古城遺跡	子 古城	散布地・中世山城跡	旧石器～近世	一部調査
31	壱丁鐘遺跡	子 壱丁鐘	石棺群	古墳	県指定北方村1号古墳
32	十郎ヶ尾遺跡	子 十郎ヶ尾	散布地	縄文～近世	
33	南久保山小堀町遺跡	子 小堀町	集落跡	旧石器～近世	一部調査
34	東原遺跡	子 東原	散布地	旧石器～近世	一部調査
35	川水流遺跡	子 川水流	集落跡	旧石器～近世	一部調査
36	足鍋遺跡	丑 足鍋	散布地	縄文～近世	
37	権現原遺跡	丑 権現原	散布地	縄文～近世	一部調査
38	角田遺跡	丑 上屋敷外	中世山城跡	中世	地名のみ
39	松尾原遺跡	寅 松尾原	散布地	旧石器～近世	
40	岩土原遺跡	寅 岩土原	散布地	旧石器～近世	
41	笠下山口原遺跡	寅 山口原	散布地	旧石器～近世	一部保存
42	笠下黑原遺跡	寅 黒原	散布地	旧石器～近世	一部保存
43	笠下下原遺跡	寅 下タノ原	散布地	旧石器～近世	
44	伊木原遺跡	寅 伊木原	散布地	旧石器～近世	
45	笠下ゴルフ場遺跡	寅 塩田外	集落跡	旧石器～近世	一部保存

II. 調査の内容

1. 調査の概要

本遺跡は、標高約150m～160m程の通称「原」と呼ばれる台地上に位置し、以前から石礫等が採集されていた。五ヶ瀬川からの比高差は60～80mである。

平成16年は、例年以上に台風災害が多発した年であった。本遺跡は、以前梨園であったが、相次ぐ台風で実が落ちてしまうという被害を受けた。折しも、近接するところで農地保全整備事業に伴う発掘調査を行っていたところ、地主より梨からみかんへの転作をするために、木の根を掘り起こす旨の連絡を受けた。当該地周辺では、これまでの調査で弥生時代終末期から古墳時代初頭期の竪穴住居跡や縄文時代早期の集石遺構が検出されているため、遺構の存在が予想された。

台風災害の後始末と農地保全整備事業に伴う発掘調査が一段落した12月より試掘調査を実施したところ、縄文時代後期の土坑と弥生時代終末期から古墳時代初頭期の竪穴住居跡を確認した。梨の根は表土より深さ1.5mほどのところまで達しており、重機による掘り起こしで遺構への影響が予想された。このため、梨園部分のみを全面調査することになった。

調査の結果、旧石器時代から近世にかけての遺構と遺物を検出したが、整理期間がなかったために、遺物の整理は、次年度に実施することになった。

遺構としては、縄文時代早期の集石遺構1基・連結土坑15基、縄文時代後期の土坑5基、弥生時代終末期から古墳時代初頭期の竪穴住居跡2軒、時期不明の土坑1基、及び若干の柱穴を検出した。

遺物としては、旧石器時代の剥片、縄文時代早期の石錫・押型文土器、縄文時代後期の石錫・石鍤・打製石斧・スクレイバー・土器片、竪穴住居跡内より土器・すり石・石皿等が出土した。近世の陶磁器片も若干出土した。

2. 基本層序

基本層序は以下の通りである。

I層…表土層（約20cm）

II層…茶褐色土層（約20cm）

III層…黒色土層。バサつく。（約30cm）上部より主に縄文時代晩期の遺物や須恵器、陶磁器等の遺物が出土。一部の斜面部を除いて、削平されている。

IV層…アカホヤ層（約20cm）

V層…黒褐色土層（約20cm）やや粘質。縄文時代早期の遺構と遺物が出土。

VI層…黄褐色土層（約20cm）粘質。旧石器時代の遺物が若干出土。

VII層…A T層（約10cm）

VIII層…黒褐色土層（約20cm～50cm）やや粘質。3～5cmのブロック状。

IX層…黄茶褐色土層。粘質。小砂利を含む。

X層…阿蘇溶結凝灰岩層。岩盤。

上崎遺跡位置図





トレンチによる確認調査



遺跡近景



集石遺構



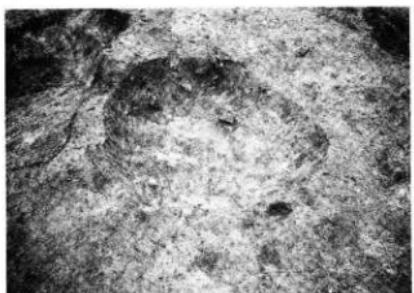
連結土坑検出状況



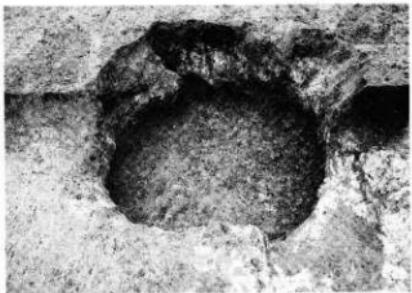
連結土坑（拡大）



連結土坑断面



土坑（縄文時代後期）



土坑（縄文時代後期）



土坑（時期不明）



竪穴住居跡



体験学習



現地説明会

(写真提供：夕刊アリーニ新聞社)

III おわりに

今回の調査で検出された遺構は、縄文時代早期の集石遺構1基、連結土坑15基、縄文時代後期の土坑5基、弥生時代終末期から古墳時代初頭期の竪穴住居跡2軒、時期不明の土坑1基、及び若干の柱穴である。

遺物としては、旧石器時代の剥片、縄文時代早期の石鎌・押型文土器、縄文時代後期の石鎌・石錐・打製石斧・スクレイパー・土器片、竪穴住居跡内より土器・すり石・石皿等が出土した。近世の陶磁器片も若干出土した。

旧石器時代では、AT層を確認したが、包含層からの出土遺物は少なかった。また、他の時代の遺物に混じって出土しているが、量的には多くない。しかし、周辺には良好な包蔵地が予想され、今後、慎重な対応が必要となる。

縄文時代では、アカホヤ層が確認され、層の下位より縄文時代早期の集石遺構1基と連結土坑15基を検出した。連結土坑は、すべて傾斜部での検出である。遺構内からの出土遺物はほとんどない。連結土坑の検出例は、町内では曾木原遺跡について2例目、五ヶ瀬川流域全体でも4例程しかない。今後は、調査事例の増加を待ちながら、比較検討を行っていきたい。

また、アカホヤ層上部から掘り込まれた縄文時代後期の土坑を5基検出した。土坑内の遺物は、石鎌・石錐・打製石斧・スクレイパー・土器片等である。土器は、磨消縄文より沈線文を主体とするようである。一部の土坑は、AT層下位まで掘り下げられているが、上面は耕作により搅乱されているために、詳細は不明である。

当地域における弥生時代～古墳時代に属する住居跡の発見例は、今回で6例目となる。これまでの調査は、調査区が限られていたために、竪穴住居跡の部分的な調査例しかなかったが、今回の調査ではじめて住居跡全体を調査することができた。速日峰地区遺跡や萩田遺跡など、周辺地域の事例と形態的な差異は認められないようである。

今回の調査は、台風災害の影響や社会教育事業との調整もあり、2月ぎりぎりまでの調査となり、整理作業まで十分な時間をとることが出来なかつた。

しかし、地主の快い了解を得て、果樹植え付けの時期を調整しながら、小学生や町民の発掘調査体験学習や現地説明会を開催することができ、発掘調査を生涯学習活動の一環として結び付けることができたのは、大きな成果であった。

今後とも、地元地区民との連携を密にしながら、急斜面や狭小なやせ尾根等にも目を向け、さらに、旧石器時代や中・近世の遺構・遺物にも注意を払い、上崎地区全体を視野にいたれた調査を行う必要がある。

報告書抄録

フリガナ	キタカタチヨウナイイセキ						
書名	北方町内遺跡5						
副書名	平成16年度町内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財調査報告書						
卷 次							
シリーズ名	北方町文化財報告書						
シリーズ番号	第24集						
編集者名	小野信彦						
編集機関	北方町教育委員会						
所在地	宮崎県東臼杵郡北方町卯682番地						
発行年月日	平成17年3月31日						
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村	北 緯	東 綏	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
がく*キ 上崎遺跡	東臼杵郡 北方町辰	45426			2004.6.16～ 2005.2.28		農地改良工事 に伴う調査
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
上崎遺跡	包蔵地 等	縄文時代早期 弥生時代終末期～ 古墳時代初頭期	集石遺構1基 連続土坑15基 土坑6基 整穴住居跡2軒	土器・石器等	五ヶ瀬川流域では、最 上流部において縄文時 代早期の連続土坑を確 認した。		